

(5)今回のワークショップを踏まえて、自身の所属するまちづくり協議会の防災活動にどのように活かしたいと思いますか。
以下にご入力ください。

NO.	(5)今回のワークショップを踏まえて、自身の所属するまちづくり協議会の防災活動にどのように活かしたいと思いますか。以下にご入力ください。
1	防災マニュアル、避難所マニュアルの作成が必要と感じました。
2	防災(避難所対策など)は、当まち協全体で取り組む課題であると、今後、役員会でしつこく主張していきます。
3	災害への準備と災害時の行動計画を決めて運営方法を定める。
4	市内20まち協の防災担当者の情報交換を定期的開催を要請します。
5	防災部の取り組みをまち協全体にどの様に広めていくかが課題かなー
6	人とのつながりを大切にすることで、今まで行ってきた活動の継続が、災害時の協力体制に活かせることがわかった。
7	良元小学校では、校庭に耐震性貯水槽が設置されているが、いざという時に避難住民と共に、操作できるように取り組みをしていきたい。
8	安心安全に取り組む上で情報の共有の為、安否確認、コミュニケーションの方法が重要だと思います。
9	実際に防災活動が必要になった時に実践できるよう、見直しや訓練を続けて実施する必要が有ると感じました。
10	情報交換の効用が何点か気付き互いに収穫有り、部会に持ち帰り提案したく思った
11	指定避難所での避難者の収容には限度がある。そのため、地域の人には在宅避難や知人・親戚宅への分散避難の推進、そのための飲料水・食料のローリングストック、防災グッズの備えを勧めたい。また、地域の被害状況や地域住民の避難状況を把握するため、近隣住民同士のつながりの強化、地域住民と指定避難所と連携の強化を図っていきたい。
12	耐震水槽の情報発信。小学校との連携強化(カギの管理など)。防災計画作成、避難所運営マニュアル作成とシミュレーション。資器材のチェックと必要性の確認作業。
13	各グループの発表では、在宅避難についての言及がありました。うちのまち協でも地区防災計画や避難所運営マニュアルを策定していますが、策定からだいぶ経ちますので、そろそろ見直しの時期かと思っています。そのときに、今日のワークショップで聞いた各まち協の話しを地域の中で共有しながら進めていけたらと思っています。
14	コミュニティ未広の地区防災計画に変更が必要な箇所があれば、訂正を行います。例えば、避難テントの採用が一般的になっているのなら、そのように改めます。
15	避難ステップの参考になった。
16	現実的な避難所開設のマニュアル作りを急ぐ必要があると感じた
17	参考になる意見を取り入れていく。

NO.	(5) 今回のワークショップを踏まえて、自身の所属するまちづくり協議会の防災活動にどのように活かしたいと思いますか。以下にご入力ください。
18	災害時に必要な個別対応は自治会が行うのが効率的であるがまち協でできるかの検討。自治会が立ち上げる災害対策本部をまち協でできるか検討。
19	自宅避難の場合、避難所の逆瀬台小学校に救援物資が届くとのこと。その先を誰が、どのようにして、配付するのが次の課題です。いつ、救援物資が届くのかの連絡体制はどう考えたらよいでしょうか？
20	一つの組織で完結する事項はないので、宝塚市の各課、消防署、教育委員会等の協力が是非共必要です。
21	参考となる話は地域に持ち帰りたい。ただ抱えている課題は他地域も似ている所が多く、地域だけで進める難しさを改めて感じた。
22	防災会にどのように連絡ができるか。
23	具体的にはまだ考えておりませんが、とにかく防災が大事だということを周知徹底させたいと思います。
24	防災訓練を定期的に行うことが地域住民への関心度や協力につながり、防災学習の啓発となる。継続は力なり。
25	宝塚市の意向については機会を見つけてまち協にも参加自治会にも紹介したい。自治会に紹介すれば憤激の声が上がる。それも含めて出てくる意見には耳を傾けたい。
26	避難所運営の確立を構築して行きたいと思います。
27	地震のときは小学校へ避難すれば良いが、水害の時は避難場所がない。
28	自分たちの出来ることを行っていく。くらいです。
29	地域住民への広報
30	共通の問題点を中心に検討していきます。
31	マニュアル作成に役立てたい
32	中山台コミュニティ地区防災計画を改定したいと思います。とくに「在宅避難者」対応について安否確認、食料、水などの要望、配給体制を構築していくつもりです。
33	マニュアルづくりの参考にする。
34	安否確認と情報伝達方式の検討
35	情報の取得や伝達の方法について色々な手段を用いてできるように今後考えていきたい。
36	次年度防災計画をまとめるつもりである。

(6)その他、ご意見やご質問等あれば、以下にご入力ください。
【ご意見】

NO.	(6)その他、ご意見やご質問等あれば、以下にご入力ください。 ※いただいたご質問については、後日、回答を作成し、参加者及びまちづくり協議会代表者交流会で共有させていただきます。
1	最初は緊張しましたが、グループの方に優しく対応していただき、率直な話が聞けたり話せたと思います。
2	避難所の体育館を防災の観点から、初めて見ましたが、収容人数、備品、トイレ等があまりにも、見劣りし、がっかりしました。早く防災庁が設立され、予算も職員数も確保され環境や衛生面で充実されることを望みます。
3	災害について取り組んでいるところと、そうでないところがあり全体的に進めて行くことが難しい。
4	防災課、教育委員会、地域福祉課、介護保険課との防災に関連する情報共有が不足しているのが地域で顕著に目立つので、至急対応してください。
5	防災計画について、人手も予算も不安で、前進させるための課題が多い。
6	大規模災害が発生すると、みんなが被災者となり、まち協役員や自治会役員が、いち早く指定避難所へ行くのは無理である。避難所の混乱が、予想出来ないのではないかと。
7	震災訓練で避難所開設について市の担当者2名と小学校管理者、地域担当者を含めた訓練ができれば、是非参加したいと思えます。でないとい体育館の鍵を開ける事が出来ませんし、持つての意味がないです。
8	このようなワークショップや意見交換を行いながら、安心できるまちづくりのレベルアップが必要だと感じました。
9	今回の試みに初参加でしたが効果大と受け止めました。ホール全面を生かしてグループ間の間隔を出来る限り開ける(広げる)様に配置して頂けたら、と思いました。(隣接するグループの声が雑音として入ってきて)
10	防災は各まち協にとってとても大きな課題の一つだと思っています。ワークショップだけでなく講義型も含め、今日の一回で終わりにしないで、ときどき防災を切り口にした研修をしていただけたら嬉しいです。よろしくお願ひします。今日は本当にありがとうございました。
11	地域との密着をお願いします。
12	避難所を開設したら真っ先に取組むべきはトイレの養生だと思うが、学校のトイレがほとんど和式でビニールを張ることも出来ない。トイレ環境が悪化すると一気に健康被害に繋がる災害関連死が増えると予想されるので、洋式のポータブルトイレを用意する等、早急に対策を取って欲しい
13	今後の避難所のあり方を具体的に示してほしい。
14	地域福祉課にも参加してもらいたい。宝塚市の中の横断的な情報共有が必要だと思います。
15	今回は避難所の設置運営の問題が中心でした。でも、これからは、在宅避難が中心になると思われれます。したがって、これからは、避難所の運営よりは、避難所を通じてどのように情報を発信するか。避難所から、どのように物資を各家に運ぶかを考えるようにした方がいいのではないかと思います。
16	今回の学習会の継続を望みます。他の組織の状況を知ることにより、自分たちの組織の検証ができる。地域福祉教育と活動。併せて地域防災教育と活動がまち協活動の根幹だと思う。
17	宝塚市としてこれだけ汗をかき、施設管理者も手いっぱいこれ以上できないから協力してほしい、というストーリーがないと、ただ地域の問題はあなた方の問題だからやってね、では法律で定められている行政の役割の放棄にしか思えない。
18	それぞれの協議会で取り組むに大きな差を感じました。平準化して行くことが肝要であると思います。

NO.	(6)その他、ご意見やご質問等あれば、以下にご入力ください。 ※いただいたご質問については、後日、回答を作成し、参加者及びまちづくり協議会代表者交流会で共有させていただきます。
19	個別のまち協単位はともかく、まち協同士の連携や他の団体との連携には行政の協力(というか指導力)が必要と考えます。避難所となる学校(教育委員会)や災害時要援護者支援担当課とは協働が出来るのではないのでしょうか？
20	ワークショップ前の質問コーナーが時間オーバーと感じました。 防災リーダー会長の感想があればと思いました。 ワークショップの設定に関する質問は事前に聞いておいて、当日、全員に共有するべき内容を、最初の説明時にした方がやり易かったと思います。
21	継続は力ゆえ内容の改善を加えながら長期に継続を願います。
22	差し出がましいですが、市の各部門に専門家集団を作っていくべきでしょう。部門によりますが、コロコロ人事異動すれば、専門家集団は育ちません。最近、市の各部門で対応力が低下していると、多くの方が嘆いています。とくに総合防災課などは専門家を育成すべきだと思います。米国の防災専門学校に学びにいかせるぐらいのことはやってはいかがすか。
23	継続を希望。

(6)その他、ご意見やご質問等あれば、以下にご入力ください。
【ご質問】

NO.	(6)その他、ご意見やご質問等あれば、以下にご入力ください。 ※いただいたご質問については、後日、回答を作成し、参加者及びまちづくり協議会代表者交流会で共有させていただきます。	回答
1	避難所の開設は、行政の判断だけでなく、地域住民の判断で行わなければならないケースがあると思います。地域住民の判断で避難所を開設する条件(判断基準)はなにか？	<p>地区防災計画又は避難所運営マニュアルを作成済みであり、避難所の自主運営を実施できる体制が整えられているまちづくり協議会の代表者からの申し出により、教育委員会より鍵を貸与することができることになっています。鍵の貸与を受けて保管している方は、以下の場合において、指定避難所が施錠され立ち入ることができないときは、鍵を解錠することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内で震度6弱以上の地震が発生した場合 ・市災害対策本部が緊急安全確保、避難指示又は高齢者等避難を発令し、鍵を貸与した学校での指定避難所開設を決定した場合において、当該施設の解錠を要請したとき <p>なお、解錠したときは、解錠した方が建物内の安全を十分に確認した上で入室するとともに、市災害対策本部にその旨を連絡することとなっています。</p>
2	トランシーバーの先進事例と効果。学校とのカギ共有の先進事例とその取扱い方法。避難所運営マニュアルの先進事例と、避難訓練の先進事例を知りたい。	<p>地区防災計画又は避難所運営マニュアルを作成済みであり、避難所の自主運営を実施できる体制が整えられているまちづくり協議会の代表者からの申し出により、教育委員会より鍵を貸与することができることになっています。鍵の貸与を受けて保管している方は、以下の場合において、指定避難所が施錠され立ち入ることができないときは、鍵を解錠することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内で震度6弱以上の地震が発生した場合 ・市災害対策本部が緊急安全確保、避難指示又は高齢者等避難を発令し、鍵を貸与した学校での指定避難所開設を決定した場合において、当該施設の解錠を要請したとき <p>なお、解錠したときは、解錠した方が建物内の安全を十分に確認した上で入室するとともに、市災害対策本部にその旨を連絡することとなっています。</p> <p>解錠のため使用した鍵は、教育委員会が回収し、再度厳封のうえ貸与することとなっています。(その他、複製不可など注意事項あり)</p> <p>各先進事例につきましては、地域に応じた事例の提供のため個別でご相談いただければと存じます。</p>

NO.	(6)その他、ご意見やご質問等あれば、以下にご入力ください。 ※いただいたご質問については、後日、回答を作成し、参加者及びまちづくり協議会代表者交流会で共有させていただきます。	回答
3	避難所が地域の災害対応の拠点になっているが、その為の仕組み、体制また自治会との関係が分からない。従来自治会に求めてきたことがなぜまち協なのか。まち協で担うならまち協毎に関係者で協議して目線合わせが必要でないですか。	避難所は単に避難者の生活の場としてだけでなく、地域の災害対応拠点としての機能も持つことが求められています。これは在宅避難者への支援や情報提供の拠点としての役割も含まれます。避難所の運営にあたっては、避難者を中心とした避難所運営委員会が組織されますが、円滑な運営のためには地域住民の協力が欠かせません。まちづくり協議会は概ね小学校区域を活動範囲とし、多様な主体が参画していることから、協力を期待しているところです。ご指摘のとおり、まちづくり協議会ごとに関係者間での協議を重ね、目線合わせをすることが必要と考えております。今後、必要に応じて協議させていただきます。
4	(5)に同じです。 自宅避難の場合、避難所の逆瀬台小学校に救援物資が届くとのこと。その先を誰が、どのようにして、配付するのが次の課題です。いつ、救援物資が届くのかの連絡体制はどう考えたらよいでしょうか？	避難所は物資の供給拠点、情報伝達拠点の役割も担います。いつ救援物資が届くのかといった市から避難所への連絡については、避難所運営委員会と市災害対策本部とで行います。市民への情報提供については、避難所での掲示、市ホームページや市のSNS等、複合的に活用して情報が行き渡るよう努めますが、まちづくり協議会にもご協力いただければと存じます。
5	ライフライン停止で全市に水や食料が配布出来ますか？	市の食糧備蓄の現況については、宝塚市地域防災計画、宝塚市で直下型地震が発生した場合の建物被害想定が約25,000人であることから、1日1食の2日分相当の50,000食、在宅避難者用の10,000食の計60,000食を備蓄しています。詳細は宝塚市地域防災計画(資料・様式編)(602ページ)をご確認ください。災害の状況によっては国や県からのプッシュ型支援も考えられ、市と企業等との物資協定の締結も進めてはおりますが、被災状況によっては、即時に全市民に迅速な配布は困難な場合もあります。そのため、市では市民に対し、水・食糧・携帯トイレ等の物資の1週間程度の備蓄を呼びかけているところです。
6	阪神淡路大震災の時、宝塚市がどの様に対応し、その後、どの様に改善できたか知りたい。	阪神・淡路大震災の時の宝塚市の対応については、宝塚市ホームページ「阪神・淡路大震災の記録」(ID:1001630)、宝塚市役所発行の「阪神・淡路大震災-宝塚市の記録1995-」をご確認いただければと存じます。その後の改善の取り組みについては各担当部署で行い、地域防災計画に反映し改訂を行っております。避難所関連では、間仕切りテントや段ボールベッドの整備、避難所運営マニュアルの整備や改訂などが挙げられます。